



ARAUCO®

2025 年 8 月

アラウコ社日本代理店
サカキバラコーポレーション

チリラジャータパインの現状と今後の見通し

1. チリ社会

サンチアゴ市内は冬のシーズンを迎えましたが、今年は暖冬傾向で少雨の天気予報が出ております。トランプ関税が銅に対して **50%課税**を検討しており、今後のチリ経済に影響が出る可能性が出てきました。銅価格は **4.30-4.47** ドルで落ち着いており、為替もドルに対して **940-960** ペソの範囲で先月から推移しています。

今年 11 月の大統領選挙に出馬する候補者が揃い、極左のハラ、極右のカスト、中道右派連合のマテイの **3** 候補者になり、ハラ候補とカスト候補がリードしています。世界的に極左か極右の政党に国民支持が強く、今回も中道右派は厳しい選挙戦です。

2. 世界市況

米国と日本の関税交渉が **15%**で決着をしました。今まで関税率が不透明でしたので、各輸出企業は相互関税 **15%**で米国への販売戦略を考えていくことになります。

また今後の各国とトランプ関税の交渉を注目していく必要があります。

チリは米国と中国、メキシコとの関税に注目しており、交渉が **90** 日間延長になりましたので、今後の両国の交渉に期待をしています。

チリはアラウコと **CMPC** の共同バルク配船で中近東市場へ製材の安定供給を継続していますが、販売価格の下落傾向が続いております。

中国は引き続き国内景気が低迷をしており、チリが販売をしている家具向け **KD** 製材は **5** 年前と比べて半減しています。昨年アラウコが **2** 製材工場を閉鎖しましたが、中国向け製材シェアが高い製材工場でした。中国の国内景気回復が遅れると、日本の輸出梱包材に与える影響もしばらくは続く市況となりそうです。

NZ 丸太の輸出価格はここ数年では最低のレベルとなり、先月から丸太の伐採数量を減らして丸太価格の調整をしています。東南アジアでは **NZ** サプライヤーが今後の輸出数量を減らす傾向にあり、一部の国からはチリ材の数量を増やす動きが出ています。

韓国市場の需要は引き続き、欧州下級製材の輸入減、NZ 丸太製材からチリ製材への転換、NZ 製材の減少により、チリ材の販売数量が再び増えてきております。

3. 日本市場

a) バルク配船スケジュール

2025 年 7 月配船（3 番船）は現地を 7 月 15 日出港しており、川崎入港はお盆明けの 8 月 21 日を予定しております。今回船よりアラウコのバルク単独配船になります。

アラウコ 9 月配船（4 番船）は現地を 10 月後半に出港して、川崎入港は 11 月末を予定しており、12 月前半で名古屋、大阪へ寄港します。

3 番船との間隔は約 90-100 日になる予定で、年内到着最終のバルク配船になります。

12 月配船（5 番船）は現地を 12 月後半に出港して、日本へは来年 2 月に入港する予定です。2026 年 1-12 月のバルク配船スケジュールは 9 月以降に決めていきます。

b) 梱包市況

7 月の梱包市場は 5-6 月に比べると各社回復傾向になりましたが、今月のお盆明け以降は日本と米国のトランプ関税 15%が輸出梱包市況に与える影響を見ることになりそうです。現行の為替水準は約 150 円あたりで、15%関税は約 130 円の為替水準と同等になります。輸出企業が関税コスト増加分を今後の収益予想にどのように組み込んでいくかにより、今後の日本景気にも大きく影響をするでしょう。

しかし東南アジア方面のトランプ関税はまだ交渉中の国が多く、今後の相互関税によっては日本の輸出産業に影響を与える懸念もあります。

日本の梱包市況に影響が大きい米国と中国のトランプ関税は再び交渉延長になり、今後も交渉が継続されます。中国経済に影響が出る心配はしばらく続きそうです。

参議院選挙を終えて、今後の政局が日本経済に与える影響も見えていく必要があります。輸出梱包市場に影響を与える可能性も注意が必要です。

チリ材業者の春先からの値上げ交渉は西日本を中心に引き続き継続しており、NZ 丸太製材業者も 5 月連休明けから値上げ交渉を継続中です。

為替も 140-145 円のレンジから 145-150 円のレンジに移行しており、チリ製材業者は 3 番船以降のコスト上昇を避けられず、また港湾業者の値上げ要請も各地で見られます。まだ値上げが浸透していない地域は製材値上げ交渉が本格化すること考えられます。国産杉製材業者は春先からの値上げは浸透しております。しかし丸太価格の上昇、物流コストの上昇等、国産材製材業者も今後のコスト上昇が予想されます。

しかし新設住宅着工数は伸び悩んでおり、住宅向け建築材から梱包材向けの製材が増えてきております。今後の国産材の動きも注意をしていく市況です。

以 上